

今につなげる

芦北町立佐敷中学校 三年 木渕 小雪

「あの病気はうつるらしいから近寄らない方がいい。」

その言葉をどれくらいの人が信じ、どれくらいの人が疑うのでしょうか。きっと私も信じてしまうでしょう。この一言は多くの人に嘘を広め、多くの人を傷つけたのです。

私は小学生の時、水俣市にあるほっとはうすの方と交流をしていました。そこは水俣病の患者さんが生活している場所です。数名小学校に出向いていただき、お話を聞きました。

症状には重い・軽いがあります。発症方法も胎児性の方、そうではない方がいらっしやいます。ですが、全員が同じ病にかかっていることに変わりはありません。

「ほんとはこういう夢があった。」  
「差別されるのは辛かった。」  
そのようなことを聞いたとき、胸が苦しくなりました。私たちはあたりまえのように平穏

な生活を送っています。毎日学校へ行き、夢を叶えるために友達と笑い合って生活しています。ですが、水俣病のみなさんは、それができなかつたと聞きました。ちゃんとした「事実」ではなく、根も葉もない「うわさ」が多の方を傷つけていました。しかし、私たちが聞いた話はこのような暗い話だけではありません。ほっとはうすの皆さんは小学生だった私たちに明るく接してくださいました。未だに夢をあきらめてないこと、水俣病を背負いながらも、自分にできることが増えたという話。このような話から私は勇気をもらいました。

このような交流から私は、うわさがどれだけ人を傷つけてしまうこと、夢をあきらめずに努力することの偉大さの二つを特に感じました。

そして、この二つは今の時代にとっても大切な考えだと思えます。

まず、うわさが人を傷つけるということでは

す。エスエヌエスの普及による情報化が進んで  
います。世界中の情報が簡単に手に入る一  
方で、事実ではない情報もたくさんあります。  
嘘の情報を信じこんでしまったり、うわさ話  
を広めてしまう可能性もあり、実際にそれに  
よる問題や誹謗中傷も発生しています。嘘や  
うわさが簡単に広まってしまい、それが人を  
傷つけてしまうことは、今も昔も変わらない  
のではないでしょう。か。  
次に夢をあきらめず努力することです。人  
は誰だってやりたいことがあると思います。  
ですが、個人的な問題、周りの環境などに  
よって、その夢をあきらめてしまう人もいるか  
もしれません。もし、その時、あと少し頑張  
れば夢が叶う可能性もあります。例えばそれが  
難であったとしても、他にできることを探す  
ことだ。つてできると思います。思い通りに  
いかなくて辛いときもあると思います。それ  
を乗り越えて辛く越えようとするのが大切だ  
と感じました。改めて、私がほっとはうすの  
方と交流し、

学んだことは、今の時代に大切な考えだと思  
います。交流して学んだことは他にもたくさん  
あります。二度と水俣病患者さんのような  
辛い思いをする方がいなくなるよう、学んだ  
ことを多くの人へ伝えていきたいと思ひます。  
その際、私たちが交流したみなさんの強い想  
いを忘れず、それも届けられるようにしてい  
きたいです。